

早稲田大学 スポーツ科学学術院
アスリートサポートセンター
THE ATHLETE SUPPORT CENTER

2025 年度 報告書

巻頭言

今年度、早稲田大学スポーツ医科学クリニックは、「早稲田大学スポーツ科学学術院アスリートサポートセンター」へと名称を改め、新たな歩みを開始することとなりました。この名称変更は単なる呼称の更新にとどまらず、大学を取り巻く環境や社会的要請の変化に応じて、組織の役割や機能を再定義しようとする意思の表れであり、時代に即した変革の象徴であるといえます。

一方で、このような変化の中にあっても、決して揺らぐことのない本質があります。それは、本センターに関わる教員やTAの、教育への情熱、そしてアスリート一人ひとりに真摯に向き合うサポートへの献身です。こうした人の思いと実践の積み重ねこそが、組織の価値を支え続けてきました。

また、本センターは単なる支援機関にとどまらず、教室での学びを現場で実践へとつなげる教育の場として、極めて豊かな機能を有しています。理論と実践が往還するこの環境は、学生の成長を促すと同時に、スポーツ医科学の発展にも寄与する貴重な土壌となっています。

これからの時代においては、「変わるべきもの」と「変えてはならないもの」を見極める視点が、これまで以上に重要となるでしょう。さらに言えば、「積極的に変えるべきもの」と「守り抜くべきもの」を主体的に問い続ける姿勢こそが、組織の持続的発展を支える鍵となります。

本センターが、こうした視座のもとで次なるステージへと歩みを進め、早稲田大学の発展、さらには早稲田スポーツのさらなる飛躍、そして早稲田大学スポーツ科学学術院の学術的価値の向上に資する存在であり続けることを、心より願っております。

2026年3月吉日

広瀬 統一

目 次

巻頭言

I. 活動報告	1
2025 年度 活動日程	2
2025 年度 開設要項	3
2025 年度 スタッフ紹介	5
2025 年度 利用者統計	14
2025 年度 勉強会報告	15
II. 部門別活動報告	17
内科部門 活動報告	18
整形外科部門 活動報告	19
コンディショニング部門 活動報告	21
リコンディショニング部門 活動報告	23
ニュートリション部門 活動報告	28
メンタル部門 活動報告	30

I . 活動報告

2025 年度 活動日程

2025 年 4 月 12 日～7 月 22 日	春学期授業期間 全部門通常相談
2025 年 4 月 15 日, 16 日	オブザーバー説明会
2025 年 7 月 30 日～9 月 20 日	夏季休業期間 リコンディショニング部門は夏季相談時間にて受付
2025 年 10 月 2 日～12 月 22 日	秋学期授業期間 全部門通常相談
2025 年 10 月 15 日	オブザーバー説明会
2025 年 12 月 23 日～2026 年 1 月 6 日	冬季休業期間（閉室）
2026 年 1 月 7 日～1 月 27 日	秋学期授業期間 全部門通常相談
2026 年 2 月 4 日～3 月 31 日	春季休業期間 リコンディショニング部門は春季相談時間にて受付

アスリートサポートセンター開設要項 (2025 年度)

広瀬 統一

対 象

- (ア) 早稲田大学スポーツ科学部に所属する学生
- (イ) 早稲田大学競技スポーツセンター（体育各部）に所属する学生
- (ウ) その他運営スタッフが必要と認めた者

相談スケジュール

《春学期》(4 月 12 日～7 月 22 日)

《夏季休業期間中》(7 月 30 日～9 月 20 日)

《秋学期》(10 月 2 日～12 月 22 日, 1 月 7 日～1 月 27 日)

《春季休業期間中》(2 月 4 日～3 月 31 日)

各部門詳細

《内科部門》

担当者： 赤間 高雄，鈴木 克彦

相談内容： 競技や練習に支障のあるような疲労感や立ち眩みなどの内科的諸症状，アンチ・ドーピングについての相談。

受付方法： ホームページ専用ページで相談の上，決定

《整形外科部門》

担当者： 鳥居 俊，熊井 司，金岡 恒治

相談内容： スポーツ傷害・障害予防相談，各種検査，機能評価

受付方法： ホームページ専用ページで相談の上，決定

《コンディショニング部門》

担当者： 岡田 純一，平山 邦明，土黒 秀則，鈴木 総一郎，黒崎 ひかる

相談内容： アスリートのコンディショニング領域全体における相談と実践指導，競技力向上に資する体力づくり，競技会へ向けたトレーニングなどのアドバイス。

受付方法： ホームページ専用ページで相談の上，決定

《リコンディショニング部門》

担当者： 広瀬 統一，細川 由梨，長瀬 エリカ，渡部 賢一，星川 精豪，筒井 俊春，前道 俊宏，西海 大地，水田 良実

相談内容： (ア) スポーツ外傷・障害およびアスレティックリハビリテーションに関する相談・実践指導
(イ) 適切な医師・医療機関の紹介
(ウ) 施設の管理および運営
(エ) 学生の指導

受付方法： ホームページ専用ページで相談の上，決定

《ニュートリション部門》

担当者： 田口 素子，三浦 希美

相談内容： 上手に減量したい，増量やからだ作りをしたい，試合前の食事の取り方を知りたい，貧血を治したい，一人暮らしで食事に困っている，バランスの良い食事がとれているか不安，栄養の知識をつけたい等

受付方法： ホームページ専用ページからの相談，各部関係者からの紹介，アスリートサポートセンター他部門からの紹介

《メンタル部門》

担当者： 西多 昌規，堀野 博幸，今井 恭子

相談内容： スポーツに関連したメンタル面の問題（うつ状態，摂食障害，睡眠障害，人間関係の問題，メンタルコンディショニングなど）についての相談。

受付方法： ホームページ専用ページからの相談，各部関係者からの紹介，アスリートサポートセンター他部門からの紹介

2025 年度 スタッフ紹介

《内科部門》

赤間 高雄（あかまたかお） 早稲田大学スポーツ科学学術院 教授		
	略歴	筑波大学医学専門学群 卒業 筑波大学大学院博士課程 修了 アテネ, 北京, ロンドンオリンピック日本選手団本部ドクター 東京 2020 大会組織委員会チーフ・メディカル・オフィサー
	関連資格	医師（内科）, 日本スポーツ協会公認スポーツドクター
	専門分野	スポーツ医学（内科）, アンチ・ドーピング
	所属学会	日本臨床スポーツ医学会, 日本体力医学会, 日本内科学会
	スポーツ関連業務	公財）日本アンチ・ドーピング機構会長 公財）日本スポーツ協会アスレティックトレーナー部会員 世界アンチ・ドーピング機構健康・医学・研究委員会委員 愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会参事

鈴木 克彦（すずき かつひこ） 早稲田大学スポーツ科学学術院 教授		
	略歴	弘前大学医学部 卒業 国立国際医療センター病院 内科系臨床研修課程 修了
	関連資格	医師（内科）
	専門分野	予防医学, 応用生理学, 病態検査医学
	所属学会	国際運動免疫学会, 日本体力医学会, 日本補完代替医療学会, 日本運動免疫学研究会他
	スポーツ関連業務	スポーツ選手の体力測定・血液・尿検査サポート マラソン・トライアスロン等レース前後の検査・医科学サポート 中高年者の健康診断および慢性疾患の予防・治療
		等

《整形外科部門》

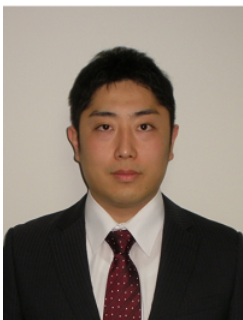
鳥居 俊（とりい すぐる） 早稲田大学スポーツ科学学術院 教授		
	略歴	東京大学医学部 卒業
	関連資格	医師（整形外科），日本スポーツ協会公認スポーツドクター
	専門分野	スポーツ医学，スポーツ整形外科，体力医学，発育発達学
	所属学会	日本整形外科学会，日本臨床スポーツ医学会，日本体力医学会，日本骨代謝学会，日本発育発達学会，ランニング学会 他
	スポーツ関連業務	早稲田大学米式蹴球部チームドクター

熊井 司（くまい つかさ） 早稲田大学スポーツ科学学術院 教授		
	略歴	奈良県立医科大学 卒業
	関連資格	医師（整形外科），脊椎脊髄病学会認定指導医，日本整形外科学会専門医，日本スポーツ協会公認スポーツドクター
	専門分野	スポーツ医学，足の外科
	所属学会	日本整形外科スポーツ医学会，日本足の外科学会，日本臨床スポーツ医学会，米国足の外科学会，国際足の外科学会 他
	スポーツ関連業務	日本オリンピック委員会（JOC）強化スタッフ（医・科学），日本自転車競技連盟医事委員長 自転車トラック競技ナショナルチーム チームドクター 柏レイソル（Jリーグ），ウルフドッグス名古屋（Vリーグ）チームドクター 日本バレーボール協会 メディカル委員会委員

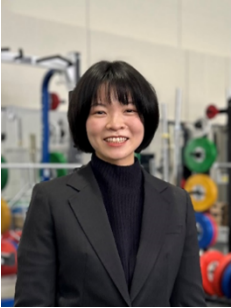
金岡 恒治（かねおか こうじ） 早稲田大学スポーツ科学学術院 教授		
	略歴	筑波大学医学専門学群 卒業
	関連資格	医師（整形外科），日本整形外科学会専門医，日本スポーツ協会公認スポーツドクター
	専門分野	スポーツ医学，スポーツ整形外科，脊椎外科学
	所属学会	日本整形外科学会，日本臨床スポーツ医学会，日本整形外科スポーツ医学会 他
	スポーツ関連業務	日本水泳連盟 参与・医事委員，JSPO スポーツ医科学専門委員 JSPO アスレティックトレーナー部会員，JSPO 国民体育大会医事部会員，JSC スポーツ事故防止対策委員 他

《コンディショニング部門》

岡田 純一（おかだ じゅんいち） 早稲田大学スポーツ科学学術院 教授		
	略歴	早稲田大学教育学部 卒業
	関連資格	NSCA-CSCS 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー
	専門分野	Strength Training and Weightlifting トレーニング科学
	所属学会	日本トレーニング科学会, 日本コーチング学会, 日本体力医学会 他
	スポーツ関連業務	クラブ 2000 シルバーフィットネス主宰 日本ウエイトリフティング協会常務理事 早稲田大学ウエイトリフティング部部長 等

平山 邦明（ひらやま くにあき） 早稲田大学スポーツ科学学術院 准教授		
	略歴	早稲田大学人間科学部 卒業
	関連資格	NSCA-CSCS, NSCA-CPT, NSCA ジャパンマスターコーチ 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー
	専門分野	ストレングストレーニング&コンディショニング
	所属学会	日本トレーニング科学会, 日本体育・スポーツ・健康・学会, 日本体力医学会 他
	スポーツ関連業務	NTT 東日本漕艇部フィジカルトレーナー NSCA ジャパン指導者育成委員会 委員

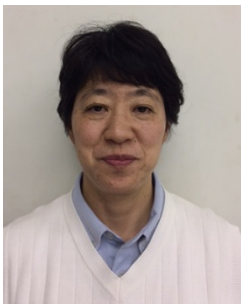
土黒 秀則（ひじくろ ひでのり） 早稲田大学スポーツ科学部 非常勤講師		
	略歴	防衛大学校 卒業
	関連資格	NSCA-CSCS, NSCA-CPT, NSCA ジャパンマスターコーチ 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー 鍼灸師, あん摩マッサージ指圧師
	専門分野	ストレングス&コンディショニング, 身体調整（筋バランス調整）&身体操作 メディカルコンディショニング（治療；腰痛改善など）
	所属学会	
	スポーツ関連業務	埼玉県 彩の国スポーツ推進パートナー ゴールドジムアカデミー講師 日本ホリスティックコンディショニング協会理事

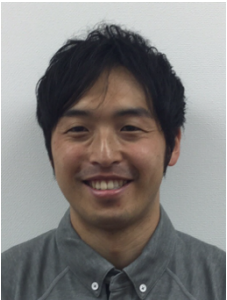
黒崎 ひかる（くろさき ひかる） 早稲田大学スポーツ科学学術院 助手		
	略歴	早稲田大学スポーツ科学部 卒業
	関連資格	NSCA-CSCS
	専門分野	ストレングス&コンディショニング
	所属学会	
	スポーツ関連業務	

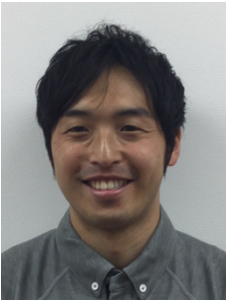
《リコンディショニング部門》

広瀬 統一（ひろせ のりかず） 早稲田大学スポーツ科学学術院 教授		
	略歴	早稲田大学人間科学部 卒業
	関連資格	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー JFA 公認 C 級コーチ, JATI トレーニング指導者
	専門分野	アスレティック・リハビリテーション&コンディショニング ジュニア期のフィジカルトレーニング&コンディショニング
	所属学会	日本アスレティックトレーニング学会 日本臨床スポーツ医学会, 日本体力医学会
	スポーツ関連業務	JFA フィジカルプロジェクトメンバー（現職） 日本女子サッカー代表フィジカルコーチ 東京ヴェルディ 1969 育成チーム 名古屋グランパスエイトユースアカデミー JFA アカデミー福島

細川 由梨（ほそかわ ゆり） 早稲田大学スポーツ科学学術院 准教授		
	略歴	早稲田大学スポーツ科学部スポーツ医科学科（BA） University of Arkansas (MAT) University of Connecticut (PhD)
	関連資格	米国公認アスレティックトレーナー（BOC-ATC）
	専門分野	アスレティックトレーニング 環境運動生理学
	所属学会	アメリカスポーツ医学会 日本アスレティックトレーニング学会 日本臨床スポーツ医学会
	スポーツ関連業務	World Academy for Endurance Medicine Expert and Advisory Board Member Korey Stringer Institute, Medical and Science Advisory Board Member 日本ラクロス協会医科学委員会委員 International Olympic Committee Environmental Stress Expert Group 委員

長瀬 エリカ（ながせ えりか） 早稲田大学スポーツ科学部 非常勤講師		
	略歴	早稲田大学人間科学部スポーツ科学科 卒業
	関連資格	中学・高校保健体育教諭, 理学療法士 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー
	専門分野	リハビリテーション（膝, 下肢中心） アスレティックトレーニング
	所属学会	日本理学療法学会, 日本整形外科スポーツ医学会, 日本臨床スポーツ医学会 日本アスレティックトレーニング学会
	スポーツ関連業務	埼玉県理学療法士会 国際スポーツ競技対策委員会 元 早稲田大米式蹴球部ヘッドトレーナー 埼玉県スポーツ協会 彩の国スポーツ推進パートナー

渡部 賢一（わたべ けんいち） 早稲田大学スポーツ科学部 客員准教授		
	略歴	順天堂大学体育学部 卒業
	関連資格	NATA-ATC, NSCA-CSCS, NASM-PES
	専門分野	アスレティック・リハビリテーション
	所属学会	
	スポーツ関連業務	Physiotherapy Associates Tempe SPORT Clinic (Arizona, USA) アスレティックトレーナー 広島東洋カープ アスレティックトレーナー ヤクルトスワローズ コンディショニングコーチ 福岡ソフトバンクホークス メディカルディレクター 等

星川 精豪（ほしかわ せいこう） 早稲田大学スポーツ科学部 非常勤講師		
	略歴	早稲田大学大学院スポーツ科学研究科 修士課程 修了
	関連資格	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー 鍼灸師
	専門分野	アスレティックトレーニング ユース育成
	所属学会	日本アスレティックトレーニング学会 日本臨床スポーツ医学会, 日本発育発達学会 日本関節鏡・膝・スポーツ学会 (JOSKAS)
	スポーツ関連業務	日本オリンピック委員会強化委員 (医・科学スタッフ) 日本バスケットボール協会技術委員会スポーツパフォーマンス部会兼ユース育成部会 東京都バスケットボール協会コンディショニング (医・科学) 委員会委員長 関東大学バスケットボール連盟医科学部員 聖路加国際病院整形外科/神奈川大学/実践学園中学校男子バスケットボール部アスレティックトレーナー

筒井 俊春（つつい としはる） 早稲田大学スポーツ科学学術院 講師		
	略歴	早稲田大学スポーツ科学部 卒業
	関連資格	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー 理学療法士
	専門分野	発育発達, アスレティック・トレーニング, スポーツ理学療法
	所属学会	日本臨床スポーツ医学会, 日本スポーツ理学療法学会 日本アスレティックトレーニング学会, 日本成長学会
	スポーツ関連業務	日本スポーツ理学療法学会総務作業部会部員 東京都内のジュニアチームのメディカルサポート 東京 2020 オリンピック村外サポート

前道 俊宏（まえみち としひろ） 早稲田大学スポーツ科学学術院 講師		
	略歴	早稲田大学スポーツ科学部 卒業
	関連資格	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー 鍼灸あん摩マッサージ指圧師 日本トレーニング指導者協会認定トレーニング指導者
	専門分野	スポーツ医学（整形外科学），アスレティック・トレーニング
	所属学会	日本臨床スポーツ医学会，日本足の外科学会 日本アスレティックトレーニング学会，全日本鍼灸学会
	スポーツ関連業務	日本水泳連盟トレーナー会議所属 早稲田大学水泳部競泳部門トレーナー 競泳日本代表トレーナー

西海 大地（にしうみ だいち） 早稲田大学スポーツ科学学術院 助教		
	略歴	早稲田大学スポーツ科学部 卒業
	関連資格	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー NSCA-CSCS NASM-PES, NASM-CES
	専門分野	トレーニング科学，アスレティック・トレーニング，
	所属学会	日本アスレティックトレーニング学会 日本トレーニング科学会
	スポーツ関連業務	株式会社 S-CADE アドバイザー パラテニス日本代表選手パーソナルトレーナー 埼玉県スポーツ協会 彩の国スポーツ推進パートナー 国立スポーツ科学センター 非常勤トレーニング指導員 SEIBU プリンセスラビッツ（社会人女子アイスホッケー）トレーナー テニス全英・全米・全豪オープン帯同

水田 良実（みづた らみ） 早稲田大学スポーツ科学学術院 助教		
	略歴	長崎大学医学部保健学科理学療法学専攻 卒業 広島大学大学院医系科学研究科 修了
	関連資格	理学療法士
	専門分野	スポーツリハビリテーション，ウィメンズヘルス
	所属学会	日本臨床スポーツ医学会 日本スポーツ理学療法学会 日本ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法学会 日本アスレティックトレーニング学会，他
	スポーツ関連業務	バスケットボール部トレーナー（広島大学，早稲田大学） 日本パラバドミントン連盟医事部トレーナー

《ニュートリション部門》

田口 素子（たぐち もとこ） 早稲田大学スポーツ科学学術院 教授		
	略歴	早稲田大学大学院スポーツ科学研究科 博士後期課程 修了
	関連資格	管理栄養士，公認スポーツ栄養士，健康運動指導士
	専門分野	スポーツ栄養学
	所属学会	日本栄養改善学会（評議員） 日本スポーツ栄養学会（評議員） 日本体力医学会（評議員） 日本臨床スポーツ医学会（正会員） アメリカスポーツ医学会 他
	スポーツ関連業務	日本陸上競技連盟医事委員スポーツ栄養部長（2007～2023） バルセロナオリンピック日本陸上競技選手団専属管理栄養士（1992） 日本オリンピック委員会強化スタッフ（医・科学）（～2023）

三浦 希美（みうら のぞみ） 早稲田大学スポーツ科学学術院 助手		
	略歴	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 修了
	関連資格	管理栄養士，公認スポーツ栄養士
	専門分野	スポーツ栄養学
	所属学会	日本スポーツ栄養学会 日本臨床スポーツ医学会
	スポーツ関連業務	早稲田大学米式蹴球部チーム栄養士（2021～2023）

《メンタル部門》

西多 昌規（にしだ まさき） 早稲田大学スポーツ科学学術院 教授		
	略歴	東京医科歯科大学医学部 卒業
	関連資格	精神科医師, 日本精神神経学会認定専門医, 日本睡眠学会睡眠医療専門医, 日本スポーツ協会認定スポーツドクター 他
	専門分野	精神医学, 睡眠医学, メンタルヘルス
	所属学会	日本スポーツ精神医学会 日本精神神経学会 日本睡眠学会 日本臨床スポーツ医学会 他
	スポーツ関連業務	日本アンチ・ドーピング機構 審査員 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会 副チーフマネージャー

堀野 博幸（ほりの ひろゆき） 早稲田大学スポーツ科学学術院 教授		
	略歴	早稲田大学人間科学部 卒業
	関連資格	日本サッカー協会（JFA）公認 S 級コーチ C 級コーチ公認インストラクター
	専門分野	スポーツ心理学, コーチング学
	所属学会	日本心理学会, 日本スポーツ心理学会, コーチング学会 他
	スポーツ関連業務	JFA アカデミー福島・今治 心理サポートスタッフ JFA B・C・D 級コーチチューター 埼玉県スポーツ協会彩の国スポーツ推進パートナー（パフォーマンス心理, リサーチ・コンサルティング）

今井 恭子（いまい きょうこ） 早稲田大学スポーツ科学学術院 非常勤講師		
	略歴	University of Ottawa (MSc in Kinanthropology, Sport psychology) 修了
	関連資格	公認心理師, キャリアコンサルタント, 精神保健福祉士
	専門分野	スポーツ心理学, メンタルトレーニング, キャリア発達
	所属学会	日本スポーツ心理学会
	スポーツ関連業務	日本オリンピック委員会メンタルマネジメント研究班 国立スポーツ科学センタースポーツ科学部心理部門研究員 日本代表, 社会人, プロ, 学生, 障がい者アスリートおよび指導者への心理支援, キャリア支援, コンサルテーション

利用者統計

<2025 年度>

2025 年度の各部門の相談件数を表 1 に示した。相談件数は、内科部門 14 件、整形外科部門 181 件、コンディショニング部門 2316 件、リコンディショニング部門 324 件、ニュートリション部門 259 件、メンタル部門 91 件であった。

表 1. 2025 年度アスリートサポートセンター各部門の相談件数または利用者数

部門	内科	整形外科	コンディショニ ング	リコンディショ ニング	ニュートリ ション	メンタル
4 月	2	28	234	20	27	13
5 月	2	30	240	50	2	9
6 月	2	38	187	81	7	12
7 月	2	32	312	57	76	8
8 月	1	0	247	1	4	7
9 月	0	0	332	5	1	8
10 月	1	19	191	34	12	5
11 月	1	21	167	31	3	4
12 月	2	11	147	27	29	8
1 月	0	2	77	15	18	5
2 月	1	0	102	2	59	5
3 月	0	0	80	1	21	7
合計	14	181	2316	324	259	91

※整形外科部門、リコンディショニング部門は 1 対 1 での対応となるため、相談件数と利用者数が同数となる。内科部門、コンディショニング部門、ニュートリション部門、メンタル部門は 1 対 1 での対応と集団指導の両方を含むため、相談件数と利用者数が異なる。

勉強会報告

1. 企画名「アスリートサポートセンター トレーナー活動勉強会」
2. 目的 アスリートサポートセンターLA がアスリートサポートセンターオブザーバーにトレーナーの知識や技術，活動内容を提供する
3. 対象 アスリートサポートセンターオブザーバー，TA，スポーツ科学学院の教員，
4. 日時 年度末にアスリートサポートセンターLA が1回開催（今年度はオンラインにて実施）

※開催曜日，日時に関してはアスリートサポートセンターLA の都合に合わせ適宜調整

5. 2025 年度開催内容（詳細は報告書参照）

第1回 （2026/03/16 開催）

「早稲田大学女子ホッケー部帯同報告」

アスリートサポートセンターLA：齋藤 裕美 さん

「早稲田大学フェンシング部帯同報告」

アスリートサポートセンターLA：吉田 拓生 さん

2026 年 3 月 16 日

早稲田大学アスリートサポートセンター
第 1 回トレーナー活動勉強会報告書

文責：黒崎 ひかる

- ・開催日時 : 2026 年 3 月 16 日 (月) 15 時 00 分～16 時 00 分
- ・開催場所 : Zoom
- ・テーマ : 「早稲田大学女子ホッケー部帯同報告」
「早稲田大学フェンシング部帯同報告」
- ・担当 : 齋藤 裕美 (早稲田大学大学院スポーツ科学研究科 博士後期課程 3 年)
吉田 拓生 (早稲田大学大学院スポーツ科学研究科 博士後期課程 2 年)
- ・参加者 : 7 名 (学生 1 名, 本学教員 6 名)
- ・内容報告 :

フェンシング部 LA の吉田さんからは、帯同 1 年目における取り組みに関してご報告いただいた。関係性の構築や、仕組みや環境の改善に取り組まれた。仕組みの改善においてはトレーニングメニューを選手が理解し主体的に取り組むことができるよう、ワークショップを開催し、環境の改善においてはトレーニングラックが導入されたことをご報告いただいた。今後は、トレーニングの目的やトレーニングの原則を選手に問い続け、主体的に選手がトレーニングを行えるよう引き継ぎ指導を継続することを述べられた。また、チームとの関係性の構築の観点では、実際のコミュニケーションの実例を共有いただいた。

ホッケー部 LA の齋藤さんからは、主にリコンディショニング、コンディショニング、メンタルに関するチームでの取り組みをご報告いただいた。リコンディショニングにおいては、ご自身の研究の内容を踏まえた成果をご報告いただき、科学的な知見に基づいてトレーニングが実施されていたことがよく理解できる内容であった。また、コンディショニングにおいては、初速の改善に取り組むについて共有いただいた。トレーニングの環境設定の工夫や、コーチとコミュニケーションをとり競技に近い動作でのトレーニングの実施に関してご報告いただき、適切な環境設定やコーチとの連携の重要性が示された。メンタルに関する取り組みについてもご報告いただき、ホッケー部において様々な側面においてサポートに取り組まれたことが理解できた。

本年度は、学生の参加が非常に少なかったことが改善点として挙げられる。例年、勉強会での発表内容は大変学びになる内容が多いため、学生の参加率を挙げられるように来年度は取り組むことが必要だと考えられる。

Ⅱ．部門別活動報告

メディカル（内科）部門 活動報告

赤間高雄，鈴木克彦

i)利用状況

アスリートからの個別の内科相談はメールでの予約制とし，相談者と担当教員とのスケジュール調整のうえ，相談はオンラインで実施した．オンラインでの相談の結果，診察や検査が必要と判断されたケースは，本人と相談の上，適切な学外のスポーツドクターや医療機関に紹介した．内科相談の担当教員は2名であるが，2025年度は1名がサバティカルであったため，1名で担当した．

個別の相談以外に，4月に競技スポーツセンターが実施した体育各部新入生部員に対する血液検査の結果判定と事後措置，および体育各部の医学サポート支援も行った．

ii)相談内容の概要

個別の相談内容としては，

- ① コンディション不良 2件
- ② 持久力低下 2件
- ③ 血液検査異常 1件
- ④ 徐脈 1件
- ⑤ 三叉神経痛 1件
- ⑥ 腹痛 1件
- ⑦ アンチ・ドーピング相談 1件

4月に競技スポーツセンターが実施した体育各部新入生部員に対する血液検査について結果の判定305名分を行い，再検査が必要と判断される者45名については，保健センターへ紹介状を発行してフォローアップした．

体育各部の医学サポート支援としては，競走部が行った血液検査結果（4月，7月，10月，12月）に対してコメントした．

iii)次年度の活動

メールによる予約制でオンラインによる相談を行い，診察や検査が必要な場合は適切なスポーツドクターや医療機関を紹介する．競技スポーツセンターが春に実施する体育各部新入部員対象の血液検査の結果の判定を行い，再検査が必要な者は保健センターへ紹介する．体育各部の医学サポートも継続して実施する．

整形外科部門 活動報告

鳥居俊, 熊井司, 金岡恒治 (文責)

2025 年度の整形外科部門の相談は, 保健センター所沢分室における医師による診療がなくなったため, 所沢アスリートサポートセンター (以下 ASC) と東伏見 ASC において実施された.

月別の各場所での相談件数を以下に示す.

各場所での相談件数は,

所沢 ASC 86 件 (2021 年度 30 件, 2022 年度 96 件, 2023 年度 59 件, 2024 年度 31 件),

東伏見 ASC 95 件 (2021 年度 64 件, 2022 年度 85 件, 2023 年度 51 件, 2024 年度 61 件) であった.

	所沢	東伏見	合計
4 月	9	19	28
5 月	12	18	30
6 月	24	14	38
7 月	16	16	32
8 月	0	0	0
9 月	0	0	0
10 月	9	10	19
11 月	9	12	21
12 月	5	6	11
1 月	2	0	2
2 月	0	0	0
3 月	0	0	0
合計	86	95	181

また各運動部別の利用者数を以下の表に示す.

競走部が 43 件と最も多く, 次いでア式蹴球, スキー, 米式蹴球, 準硬式野球部であった.

(00) サークル	1	(15) ア式蹴球	16
(02) 庭球	5	(24) 米式蹴球	10
(03) 漕艇	5	(26) ハンドボール	5
(05) 柔道	5	(27) ホッケー	4
(07b) 水泳水球部門	2	(31) 準硬式野球	10
(08) 競走	43	(37) ウェイトリフティング	5
(09) 相撲	0	(41) ソフトボール	8
(10) ラグビー蹴球	4	(43) ラクロス	1
(12) スキー	12	(45) その他	5
(14) バスケットボール	2	総計	143

所沢・東伏見 ASC を使用した選手の身体の部位別の相談件数を以下の表に示す。

腰仙部の相談件数が最も多く、次いで膝、股関節・鼠径部、肩、大腿、足部の順であった。

肩関節	15	腹部	3
上腕	1	腰仙部	46
手関節	6	股関節／鼠径部	17
手部	2	大腿	14
頸部	2	膝関節	19
胸椎部	2	下腿	8
胸部	3	足部	11
		総計	149

ASC 整形外科部門の利用者数は、昨年度と比較して所沢 ASC、東伏見 ASC のいずれにおいても増加していた。この要因として、保健センター所沢分室における診療が終了したことが影響している可能性が考えられる。利用する運動部については、所沢 ASC では競走部の利用が多かった。その理由として、競走部のチームドクターが所沢 ASC を担当していることが関係している可能性がある。また、相談内容では腰仙部に関する件数が最も多かったが、これは東伏見 ASC 担当医の専門領域が腰仙部であることが影響している可能性が考えられる。これらの利用傾向を踏まえると、ASC 整形外科部門は多くのアスリートが運動器の問題を気軽に相談できる体制というよりも、専門領域を有する担当者を選択して利用している実態があると推察される。ASC 整形外科部門の目的が選手の運動器障害に対する初期対応にあるとすれば、現状ではその目的を十分に果たしていない可能性が示唆される。

コンディショニング部門 活動報告

岡田 純一，土黒 秀則，鈴木聡一郎，西海大地，黒崎ひかる

1. 概要

2025 年度も，多くのチーム指導およびパーソナルトレーニングの指導が行われた．本年度新たに非常勤，助教の先生方がコンディショニング部門に加わり，傷害予防やパフォーマンス向上に課題を抱える学生に対し門戸を広く設けられたのではないかと考える．オブザーバー学生においても，昨年度に続き参加する学生もあり，コンディショニング部門にて学びを継続して深められたと考える．

2. 利用状況

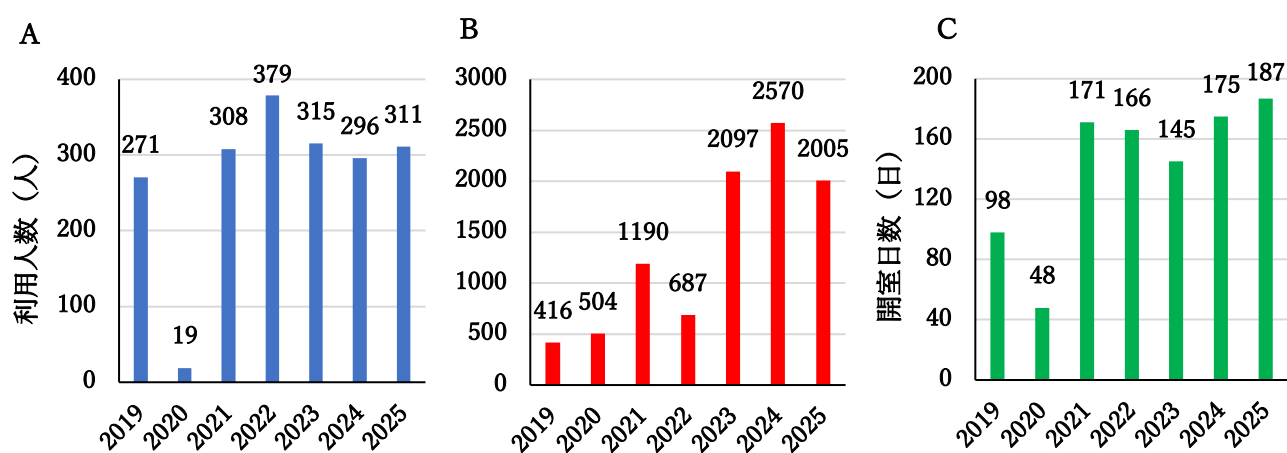


図 1 コンディショニング部門利用人数集計図

A：パーソナル指導人数総計，B：チーム指導人数総計，C：開室日数

2025 年度の利用状況は上記の図の通りである．昨年度と比べ，パーソナル指導における利用人数はやや増加したが，チーム指導における利用人数が減少した．総利用人数は 2316 名（昨年度 2866 名）であった．競技の内訳は，パーソナル指導では，陸上，スキー，ボート，スケート，自転車，バスケットボール，サッカー，ソフトボール，総合格闘技，チーム指導では，女子ラクロス，女子ラグビーと多岐にわたる競技のサポートが行われた．

3. オブザーバー研修

2025 年度のオブザーバー研修では，春学期 8 名，秋学期 4 名とのべ 12 名の学生が参加し，TA は 2 名であった．また，夏季休業期間中は 5 名，春季休業期間中も 2 名の登録があり，休業期間においてもコンディショニング部門で学びを深めたい学生のニーズを感じられた．本年度，新たに非常勤，助教の先生方が加わってくださったため，様々なバックグラウンドを持つ先生方からオブザーバー学生は学ぶことができたのではないかと考える．

4. 指導事例

スケート部（スピード）においては基本種目の挙上重量向上に取り組んだ．春学期は身体づくりを意図した筋肥大プログラムから開始し，以後のパワー向上の基盤作りに主眼を置いた．秋学期からシーズン直前まではパワー出力の向上とともに，ピーキングのためのテーパリングを詳細にデザインして系統的に指導を進めた．5 から 11 月までの間にベンチプレス 26%，パワークリーン 14%，バックスクワット

13%の1RM増がみられた。しかし、体重比では目標値に及ばなかった。体重に目立った変化はなく、単位体重あたりの出力は向上したと思われるが、一方で体重に変化がないままでは筋出力向上が停滞する恐れがある。一定の筋量（除脂肪体重）の増加も必須となってくることから、食事や日常生活に対する意識を高めることも求められよう。（岡田純一）

春期は授業を受講していた陸上競技（走り高跳び、競歩、400mハードル）の各選手に対して授業後にコンディショニング指導およびアドバイスをを行った。具体的には授業で行なっていた内容を個人、競技特性を考慮してコンディショニングを行うことで自己ベスト更新といった個々の競技成績、パフォーマンスアップに貢献することができた。秋期はサポート依頼としてスキー競技のモーグル女子選手を担当した。冬本番に向けてのコンディショニングということでベーシックから専門的トレーニング、特にジャンプ力向上が希望であったのでスキーでのジャンプの感覚に近い状態で指導を行った。サマージャンプで良いパフォーマンスが発揮できた状態で冬のシーズンに臨むことができた。合わせてオブザーバー（ボート競技）の教育も並行して行った。（土黒秀則）

本年度は初めての指導であったが、TAのサポートもあり、一年間やり遂げることができたと感じている。私はスキー部、自転車部、男子ソフトボール部、男子バスケットボール部の選手を担当した。スキー部は前期のみの指導であったが、遠征先でも実施できるトレーニングメニューを作成し、コンディショニングを維持できるよう努めた。男子バスケットボール部の選手に対しては、怪我後の機能改善を目的としたトレーニングや患部トレーニングのプログラム作成を行った。継続的にトレーニングサポートを行うことができたのは、自転車部および男子ソフトボール部の選手である。サポート開始時にはスクリーニングや体力テストを実施し、選手個人の要望に応えられるようプログラムを作成した。選手からは「競技における理想の動きに近づいている」「出力が向上した」といったフィードバックを得ることができた。しかし、トレーニング歴が短い選手が多いため、今後も継続的なサポートが必要であると考えている。（鈴木聡一郎）

本年度は、主に自転車部2名、スキー部4名、ソフトボール部1名のトレーニング指導を担当した。毎週のジャンプ高や体組成測定を通したモニタリングやフィジカル測定を行って、適応・疲労の管理を行いながらサポートを実施した。

主な成果として、選手Aは、フォーム指導開始から約1年でBSQ1RM130kg到達・ジャンプ高10cm向上・インカレ入賞、選手Bは、半年以上の膝の痛みが完治し、挙上重量自己ベストの大きな更新等が挙げられる。ほかには、BSQ1RM130kgから150kgに、スイングスピード10km/h以上向上など成果が見られた。

測定データと選手とのコミュニケーションによる選手自身の自発的努力・プログラム調整・ディロード戦略等が成果の下支えとなったと考えられる。一方、部の練習負荷による慢性疲労が強い選手はあまりトレーニング効果がみられなかった例もあったため、今後は部の指導者とも意見交換ができる場を設けることも重要と思われる。（西海大地）

チーム指導では、ラクロス部女子、ラグビー蹴球部女子部、また個人においては、自転車部、ア式蹴球部や総合格闘技の選手の指導に携わった。本年度は、選手にトレーニングやコンディショニングに必要なデータを随時提供し、選手が目的に対し主体的な行動を促せるように努めた。睡眠時間や補食実施の有無など日々集計しているアンケート結果を自動で集計できるようし、学生トレーナーと連携し睡眠時間の平均や補食実施率の変化を選手に定期的に提示することができた。また、日々のウェイトトレーニングで扱った重量が自動で更新されるグラフを作成し、選手にトレーニングで扱う重量に対する意識向上に役立ったのではないかと考える。（黒崎ひかる）

リコンディショニング部門 活動報告

広瀬 統一, 細川 由梨, 筒井 俊春, 前道 俊宏, 西海 大地, 水田 良実

1. 開室状況・相談システム

2025 年度は, 昨年度と同様に対面での完全予約制にて活動を行った. 予約システムは, アスリートサポートセンター (以下 WASC) Web ページの相談予約の専用フォームを用いた. また 2025 年度は昨年度と比べて開室日数が増加し, 東伏見 WASC では全曜日開室された.

2. 利用状況

2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日までのリコンディショニング部門の総利用件数は 324 名であり, 昨年度の 331 名から 7 名減であった (図 1) .

月別の利用件数は 6 月が最も多く, 全体的に春学期が多い傾向であった (図 2) .

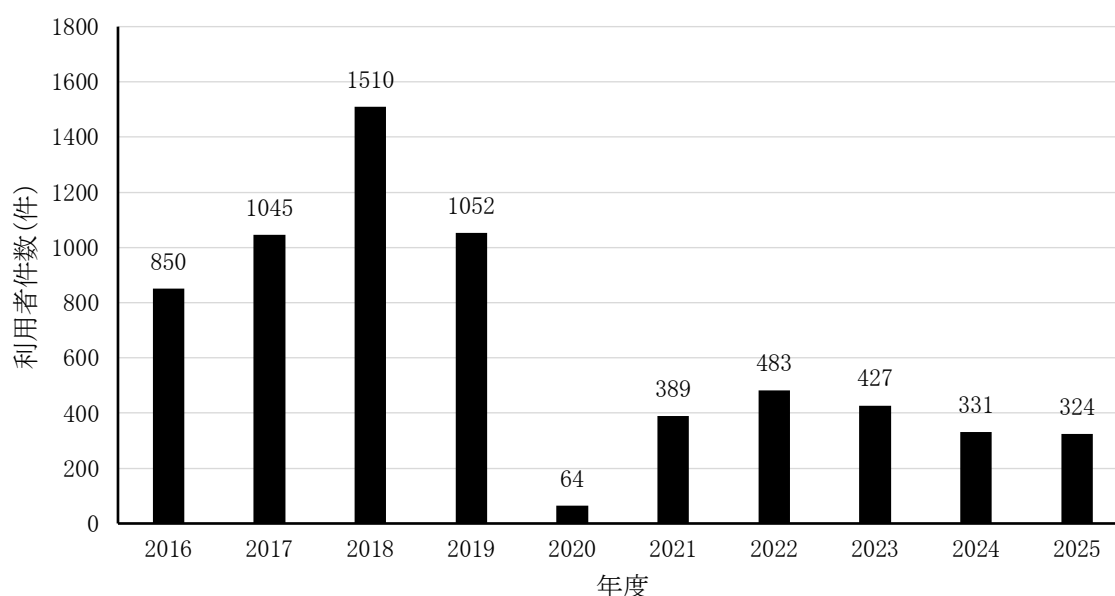


図 1. 過去 10 年間の年度別リコンディショニング部門利用件数の推移 (所沢+東伏見)

*2020 年度, 2021 年度に関しては (オンラインおよび対面の合計)

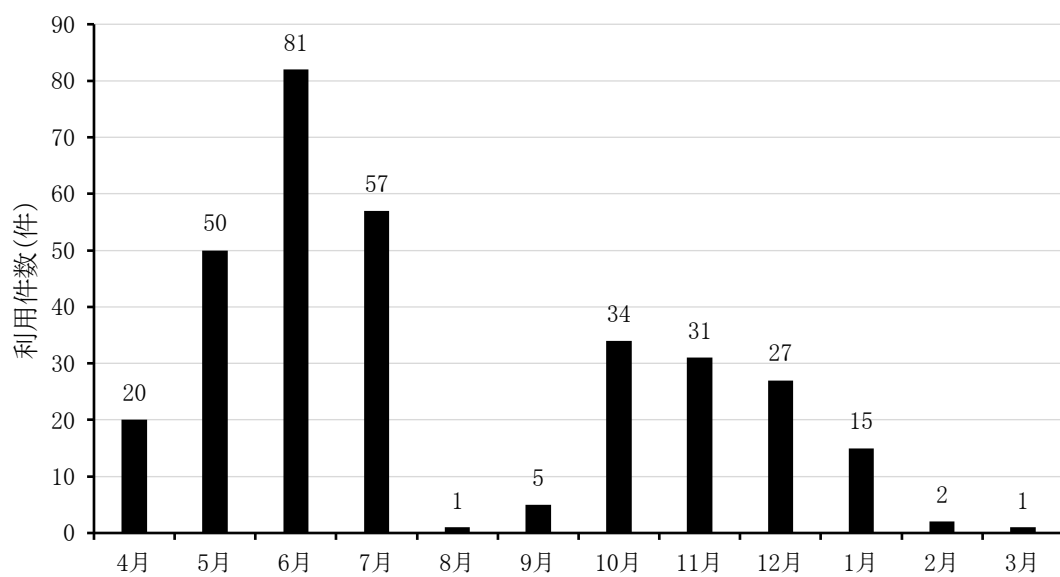


図 2. 2025 年度リコンディショニング部門月別利用件数

2025 年度の体育会別利用者件数および相談部位別利用者件数の内訳は表 1 と表 2 のとおりであった。主な体育利用部は準硬式野球部、スキー部、競走部、自転車部であった（表 1）。部位別利用件数は、膝関節が最も多く、次いで肩関節、足関節であった（表 2）。

表 1. リコンディショニング部門所属体育各部別利用件数（件）

体育各部	合 計	体育各部	合 計
(00) サークル	0	(22) レスリング	0
(01) 野球	1	(23) 自動車	5
(02) 庭球	3	(24) 米式蹴球	7
(03) 漕艇	6	(25) ヨット	0
(04) 剣道	0	(26) ハンドボール	12
(05) 柔道	13	(27) ホッケー	17
(06) 弓道	0	(28) フェンシング	9
(07a) 水泳競泳部門	0	(29a) 応援リーダー	0
(07b) 水泳水球部門	12	(29b) 応援チア	0
(07c) 水泳飛込部門	1	(30) 軟式庭球	0
(08) 競走	31	(31) 準硬式野球	43
(09) 相撲	14	(32) 自転車	25
(10) ラグビー蹴球	7	(33) バドミントン	14
(11) 山岳	0	(34) 航空	0
(12) スキー	38	(35) ワンダーフォーゲル	1
(13a) スケートスピード部門	1	(36) ゴルフ	0
(13b) スケートホッケー部門	16	(37) ウエイトリフティング	3
(14) バスケットボール	3	(38) 射撃	0
(15) ア式蹴球	5	(39) 合気道	1
(16) 馬術	0	(40) アーチェリー	1
(17) 卓球	0	(41) ソフトボール	12
(18) ボクシング	1	(42) 日本拳法	0
(19) 体操	0	(43) ラクロス	14
(20) 空手	0	(44) 少林寺拳法	0
(21) バレーボール	0	(45) その他	21
全体育各部合計			324

表 2.リコンディショニング部門部位別利用件数（件）

部位	合計	部位	合計
頭部	0	腰仙部	16
頸部	4	腹部	1
肩関節	50	股関節/鼠径部	6
上腕	3	大腿	15
肘関節	11	膝関節	54
前腕	0	下腿	10
手関節	29	足関節	42
手部	1	足部	20
胸部	1	その他（不明）	1
胸椎部	2	複数箇所	0

3. 担当者およびTA・学生オブザーバー

2025 年度のリコンディショニング相談は表 3、4 の担当者によって TA とともに学生オブザーバー指導が実施された。春学期は 31 名（1 年生 4 名；2 年生 8 名；3 年生 12 名；4 年生 5 名；修士 1 年生 1 名；博士 1 年生 1 名），秋学期は 18 名（1 年 3 名；2 年生 13 名；3 年生 1 名；4 年生 1 名）がリコンディショニング部門のアスリートサポート実習を履修し，春学期は TA が 7 名，秋学期は TA が 7 名であった。

表 3. 2025 年度春学期担当表

キャンパス	月	火	水	木	金
所沢	前道 俊宏	閉室	筒井 俊春 (細川 由梨)	西海 大地	閉室
東伏見	星川 精豪	長瀬 エリカ	広瀬 統一	渡部 賢一	水田 良実

表 4. 2025 年度秋学期担当表

キャンパス	月	火	水	木	金
所沢	前道 俊宏	筒井 俊春	細川 由梨	閉室	西海 大地
東伏見	星川 精豪	長瀬 エリカ	広瀬 統一	渡部 賢一 西海 大地	水田 良実

4. WASC LA

スポーツ医科学クリニックと体育各部との連携を強化し、競技力向上に貢献することを目的として、2021 年度に導入されたクリニック LA (Learning Assistant) 制度は、本年度からアスリートサポートセンターLA (以下、WASC LA) と名称を変更して継続した。リコンディショニング部門では、春・秋学期ともに 1 名 (女子フィールドホッケー部 1 名) を配置し、学生トレーナーへの指導・教育に加え、各部の選手に対するリコンディショニングサポートを実施した。この活動を通じて、選手のコンディショニングやパフォーマンス向上に貢献することができた。さらに、年度末には、オブザーバーや学部生を対象としたトレーナー活動勉強会を開催し、活動内容の報告・共有を行うことで、学生にとって貴重な学習の機会を提供した。次年度も引き続き、WASC LA 制度を活用し、体育各部へのリコンディショニングサポートを継続していく予定である。

5. 今後の展望

今年度は「スポーツ医科学クリニック」から「アスリートサポートセンター」の名称に変更し、新たなスタートの年となった。これまでリコンディショニング部門で掲げてきている 3 つの活動 (支援, 教育, 研究) に変わりはなく、今後も発展させていくべきと考える。特に今年度は、開室日・TA・オブザーバー数の増加、LA 制度の活用等で支援及び教育面で充実していた。研究面でも、WASC の施設・備品を用いて研究を行う学生が増え、WASC を有効活用できていたと考えられる。さらに今年度末には、東伏見 WASC 3 階のサーフェスとレイアウトの改修により、広い人工芝スペースが導入され、より良いリコンディショニングサポートや研究の場を今後も提供できると考えられる。

引き続き、アスリートサポートセンターの名に相応しい活動を展開していきたい。

文責：広瀬統一，西海大地

ニュートリション部門 活動報告

田口 素子, 三浦 希美

2025 年度ニュートリション部門の利用状況を表 1 にまとめた。個別相談は 60 件, 食事調査は 36 件, セミナー参加者は延べ 125 名, その他サポートが 38 件であり, 延べ利用数は計 259 名であった。

表 1. 2025 年度ニュートリション部門の利用状況

	栄養相談				食事調査	セミナー	その他
	所沢	東伏見	オンライン	合計			
4月	6	4	1	11	0	0	16
5月	0	2	0	2	0	0	0
6月	1	0	1	2	0	0	5
7月	0	0	2	2	0	71	3
8月	1	0	0	1	0	0	3
9月	0	0	0	0	0	0	1
10月	7	5	0	12	0	0	0
11月	1	0	0	1	0	0	2
12月	7	1	0	8	0	17	4
1月	6	0	0	6	0	12	0
2月	7	0	0	7	36	12	4
3月	7	1	0	8	0	13	0
合計	43	13	4	60	36	125	38

I. 個別栄養相談

個別栄養相談は所沢 43 件, 東伏見 13 件, オンライン 4 件の計 60 件であった。相談者の所属は計 7 部であった。相談内容としては, 身体づくりやウエイトコントロール (増量や減量) が 41 件, 現在の食事内容に関する相談が 14 件, 怪我でトレーニングに参加できない期間の食事に関する相談が 4 件, その他が 1 件であり, 約 7 割が身体づくりやウエイトコントロールに関する相談であった。昨年度に引き続き, 身体づくりやウエイトコントロールに関するニーズが高く, 増量・減量に際して食事指導の需要が高いことが窺える。

栄養相談では, 必要に応じて食事調査を実施し, エネルギー摂取量及び各栄養素摂取量に関して選手の現状を詳細に把握したうえで, 選手一人ひとりの目標や競技特性, トレーニング状況に応じた具体的かつ実践的な食事指導を行った。

選手個人からの依頼にとどまらず, トレーナーや指導者からからの依頼に基づく相談もあり, チーム全体の栄養改善を勘案して継続的な栄養サポートに発展する事例も認められた。特に, 除脂肪量の増加や体脂肪量の減

少といったウエイトコントロールに関する継続支援が多く、長期的視点での栄養サポートが選手の身体組成の改善のために有効であったと考える。さらに、ラグビー蹴球部女子部に関しては、指導者及びトレーナーと連携し、トレーニング面、メディカル面、栄養面から継続的に身体づくりの取り組みを行った。このように、コンディショニング部門およびリコンディショニング部門の教員との情報共有・連携や他部門からの紹介による相談も行われ、他部門との連携による包括的な学生支援を実現することができた。

II. 体育各部に対する栄養セミナー

部として依頼のあった漕艇部、ラグビー蹴球部女子部に対して、計 6 回、延べ 125 名に对面形式での栄養セミナーを実施した。具体的な内容としては、アスリートの食事の基本、補食の活用、試合前後の食事、身体づくりのための食事についてであり、体系的かつ実用的な内容を提供した。加えて、新入生と上級生の栄養に関する知識レベルや経験の違いを踏まえ、対象者に応じた内容を設定し理解度を高めることに努めた例もあった。学生トレーナーを通じて事前に状況を把握し、理解度に応じた指導を行った事例もあった。また、セミナー実施にあたっては、各部の指導者やトレーナーと相談のうえ、現場のニーズに即した内容とした。

特に、漕艇部に対するセミナーでは、事前に選手自身に 3 日分の食事を写真で記録させ、その内容をもとに各自での振り返り、自己評価、及び公認スポーツ栄養士からのフィードバックを行った。個々の課題を可視化し、普段の食生活に直結する実践的な学習機会を提供することができた。

III. その他サポート

その他サポートとして、下記を実施した。

- ① 身体組成の測定とフィードバック
- ② 体育各部の管理栄養士やトレーナーとの連携
- ③ 合宿・遠征時の宿泊先の食事に関する相談

身体組成の測定は、東伏見及び所沢アスリートサポートセンターに設置されている体成分分析装置 InBody を活用し、ア式蹴球部、庭球部、自転車部、ラグビー蹴球部女子部の選手に対して実施した。また、米式蹴球部のチーム栄養士への指導や漕艇部のトレーナーによるアスリートの栄養勉強会への助言等を行った。さらに、ラグビー蹴球部女子部に対しては、遠征先の食事メニューの確認や合宿時の食事の注意点を周知する等、環境が変わっても選手がコンディションを維持できるような取り組みを行った。

IV. 全体を通して

2025 年度は栄養サポートを必要とするチーム・個人に対して、目標や方向性に応じた柔軟な栄養サポートを提供し、ニュートリション部門利用者の多様なニーズに応えることのできた 1 年であった。昨年度に引き続き体育各部及び指導者との連携も継続的に行い、選手への支援体制が強化できた。今後も様々なチーム・選手のニーズに応えるができるよう、アスリートサポートセンターの他部門、体育各部や指導者と密に連携し、利用者のコンディショニング管理と競技力の維持・向上に尽力するとともに、実践的な取り組みの成果を積極的に発信し、研究活動にも展開していきたいと考える。

メンタル部門 活動報告

西多昌規, 堀野博幸, 今井恭子

1. スタッフ構成

2025年度のメンタル部門は、精神科医1名（西多）、スポーツ心理カウンセラー2名（堀野・今井）の体制で行った。

2. 利用状況

【医科学コンサルト】西多

2025年度（3月下旬まで）の新規コンサルトは11名であり、2024年度の18名からは減少した。新規相談の事由としては、不眠、抑うつ状態などのメンタル不調、オーバートレーニングなどが原因であった。

担当者が保健センター所長を兼務していることから、保健センターならびに学生相談センターとの連携の強化に努めた。学生からの相談内容を確認し、適切な相談・受診機関の助言や情報提供を行った。学内の相談・受診、あるいは外部の医療機関への橋渡しの役割が今後も主要な役割を果たすと考えられる。

【スポーツカウンセリング・メンタルトレーニング】今井

2025年度の個別相談は、昨年度からの継続6名、新規6名の12名であった。新規者数はやや減少したものの、累計相談件数は76件で、昨年度と横ばいであった。月別傾向としては、新規6件中5件が5月に集中したのに伴い、上半期のほうがやや実施数が多かった。

相談者の内訳は、男性5名、女性7名、選手11名、トレーナー1名で、全員が本学体育会に所属し、スポーツ科学部以外の学生2名が含まれた。

本年度内の終結は7名で、次年度への継続は5名が見込まれる。終結理由は、卒業が2名、課題解決による合意4名、受理後に課題解決の自己申告による未実施のまま終結が1名であった。

【スポーツカウンセリング・メンタルトレーニング・チームビルディング】堀野

本年度の個別相談は、新規0名で累計相談件数も0件であった。WASCを通して1件の依頼はあったものの、実際の相談には至らなかった。

3. 相談システムと相談内容

今井の担当においては、新規相談者の来談経緯は、全員がWASC総合受付からの申込みであった。ただし、すでに当相談員のサービスを利用している学生の口コミによって、同じ部活から複数名の学生が申し込む状況が確認された。これは、競技者としての活動やシーズンの過ごし方に対する理解のほか、動きやトレーニングに関する知見を持ち合わせての支援であることが学生に評価されているものと推測できた。スポーツ科学の知見が十分に活かされていることを示唆しており、一般的な心理臨床と差別化できる要素であることが、改めて示されたといえる。

相談内容は競技パフォーマンスの発揮に関連する事柄が大多数を占め、なかでも動作失調（イップスに類する症状）を主訴とする学生が3名と目を引いた。本年度は昨年度に引き続き、短期間で課題解決にいたる学生の割合がやや多かった一方、動作失調に代表される長期的な関わりを要するケースとの二極化がみられた。本年度から医師の関わりが限定的になったこともあり、医療連携は行われなかったものの、医師、トレーニング、リコンディショニング、栄養につなげる体制が不可欠であることに変わりはない。

4. 問題点と今後の展望

学期開始時の5月、10月は相談件数も多く、十分な対応が取れているとはいいがたい。また相談内容も、スポーツとの関連性は低く、大学生にとって一般的な症状特徴をもつ学生の相談も少なくない。こういった学生は、学生相談センターや保健センター、外部医療機関の活用を紹介していくほうが治療的と考える。

オンライン面接が定着してきているとはいえ、対面での相談が不可欠なケースももちろんある。特に体育各部の在籍学生数が多い東伏見キャンパスにおいて心理相談ができる部屋はなく、講義室を代用している状態が続いている。保健センター東伏見分室が設立されたこともあり、学生相談の機会も増える可能性がある。所沢キャンパスだけでなく、東伏見キャンパスにおける心理相談室の準備も重要な問題であることを強調しておきたい。

さらには、心理相談においても、スポーツ科学部以外に属する学生の利用が見受けられ、全学の組織と位置づけてのサービス提供が望ましい。

5. 教育・啓発活動

特になし

アスリートサポートセンター 2025 年度報告書

発行日： 2026 年 5 月

発行人： 早稲田大学スポーツ科学学術院

アスリートサポートセンター運営委員会委員長 広瀬 統一（2025 年度）

編集： アスリートサポートセンター担当助教 西海 大地（2025 年度）

アスリートサポートセンター担当助手 黒崎 ひかる（2025 年度）、三浦 希美、佐藤 颯真

